836
209
3

萇草年録

不懲迷語並外録

百十八

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

不懲迷語

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3

ガラス使用

不懲迷語巻之七　己巳十二月

目録

一 類聚征松前稅壹軍說 中外新聞所載
二 在江刺醫高生堀内行藏書送
三 近頃新聞 十二月十五日至二十五日
四 大夫士采地收公新賜家禄定則布令 日誌名目ニ有之
五 在若松縣海沼淫祭士官十三日書今正六月達 廿五日記附
六 今上十二月九日答書
七 在若松河口生寄馬長兩生書 十一月十三日
八 今上安否其家兄書 今上
九 四會藩老臣原田對馬返書
十 今上鋭陽長楯口中二帝傳書
十一 今上赤羽根子修書
十二 今上矢鳴三八事
十三 今上 同事
十四 水原縣職員録
十五 記事 自安政乙卯至陰日 附鋭少陽校員
十六 大夫士采地收公新賜家禄定則布令 日誌名目ニ有之
十七 攻辰出征壹異ニ付口說
十八 下ニ缺ハ壹冊

大正 9. 5. 27 購求

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3

ガラス使用

(一)變裝松前征說
三月廿七日山板新聞紙ニ「ウルドの譯 中外新聞ヲヤ 二四日出
アルギュス」と名くる英國軍艦去る廿日箱館を出帆し一昨日當港へ來着す其乗組人の噂よ
脫走兵を當官軍と幻受けて合戰すべきの旨ら千保立岩の普請掛りより出張の日迄
ホヒ戰爭を見ざるところ無しとぞ
南部沖にて舩軍の事
三月廿四日の朝方アメリカの旗を建てる蒸氣舩一艘北方より飛ぶが如く驅來り官軍の舩
に近づくや否や旗をおろし大砲を手出しくる後を思へば此舩も多分西夷るべし斬と
官舩五艘南部の宮古沖に碇泊せり例の大鐵舩ストーンウォールに比肩るの松艦又方より
砲を放つこと雨の如く戰い凡半時ばかりにて官舩二艘砲丸の爲めサーワ損傷し
鐵舩の乗組より錨綱の怪我人あり鐵舩そさくに堅牢なれど許多の彈丸

(二)越后八日町見付訴狀和、强出
(三)誹諧
(三)伊奈縣管下高社取建方ニ付人名
(五)蒲生君平里の墓表子孫ニ人ニ稟給
(七)信長公使織田社神号宣下
(九)悲夢先生元旦詩四首
(三)高山彦九郎事蹟書後記
(二十)中ノ条布令 二條
(三)題襲師別行
(三)水戸義公列公贈從一位宣下 三号載 三号載
(三)高山彦九郎事之上
(六)蒲生秀實詩
(三)東湖先生詩四首
(三十二)月二十七夜東京火災圖

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

を受けてもサーと破裂の如き一斗の二種の名称ありて一重瓶を請うて者十五人此度東京の大病院へ送られて英国醫士の療治を受し何れも頓て深手にて或ハ截断術を施し種と療養をもなせども此怪我人十五人の内十四人ハ長刕土州両刕等の兵にて一人ハ英吉利人なり其疵ハ皆遠方より打掛けたる石榴弾の破裂又ハカルテッヲ等にて受たる者多し

扨徳川方敗北して朝敵と称する両、阿刕の船ハ品川へ着船と共に皆打出せし大砲一発も給ひ兵船の腹ニ中ると見えしが今ハ不叶とも思ひけんもとより方く逃帰らんとす鉄船ストーンシールを直様蒸気機の火を増し駛出さんとすれども出ず猶発砲ハ止ず追撃てる外の船ニ跡を慕ひて追ひ行くにより有合ふ小船トヲ迄ニ猶発砲ハ止ず追撃てる外の船ニ跡を慕ひて追ひ行くにより有合ふ小船トヲ迄ニ皆ミな乗うつり兵船のまゝ打捨る鉄船ハ中へ切入てる者受あてしが一人も残ず有合ふ小船トヲ迄ニ故ニ降参の怪我人も多ふしと云ふ

右ハ英病院ニ来りし怪我人の話を傍聞の侭を記す尚委しく、また近日の発報を得て亦再記載ハ別刕ストーンシールを去月初旬ハ品川沖ニ碇泊ありて修復の為ニ出張迎引せし此船ハ英吉利の南部の海岸にて鉄ニ而造りし軍艦にて官船五艘と訳せしが又或人の話を聞けハ八艘ありしとふ四天船アメリカの旗を建て近寄り来りし時あやしくて思ひしかバ柱を塗替くるにより四天ともに心付ず全くハ寄を被るにより故ニ時ありし酔狂の怪我人出来りしと云ふ

砲烟中の事なれバ悟て見分ハ難しと雖ども佛国人の如き者三四人四天船中ニ在りしを見請けしと云ふ

シーボルドの噺しニ大抵同じ此方の怪我人の内英人一人にて深手故ニ大病院へ来りし今一人スコットランド人是ニ等手を負ふしと云ふ

近頃出帆せし官船の内大坂丸一艘を津軽の青森ニ着せし由
四月六日南部藩届書 全第八号四月十一日出
當領宮古浦鍬ケ崎と申處へ以軍艦八艘碇泊の処三月廿五日外国ノ旗章を建
て賊艦乗寄せ俄ニ旗章を替へ砲発ニ及ひ候ニ付即数艘ニ而乗出朝四ッ時頃
より同處續キ二而羅賀浦沖合ニて七時迄砲戦有之終ニ賊艦一艘ニ而手抜き相
成候、賊乗組ノ者最十人上陸逃去候右艦ハ焼失致しト右ニ付當藩へ探索
致命ハ内艶田とか申處の役場へ船将古川節蔵外九十五人降伏の旨申出捕縛
ノ上盛岡へ引付ハ拾ハ差図有之義二而者を青森へ護送相成由尤も八艘ノ内軍
艦七艘を賊船追撃ちから青森へ乗廻し戊辰丸一艘ハ品川へ相廻り候
由金ク箱館より三艘ハ物見旁ニ乗出候ニ付外二艘も直様箱館へ立帰り候
哉相分り不申候右ハ昨日早追ノ注進有之ニ付軍務官へ届申上候

四月

○餘考 横濱新聞紙四月二日及四日出板ノ者より抄譯す全文ハ大抵第
七号の趣と同じ又遠近新聞第五号ニ見出ニ依て其遺漏を拾ひ参考ニ備ふ
阿州の船戊辰丸ハ初めエリゴノと名けし船なり昨年其ハ買入ニ成しなり此
度の戦ひニ最初ハ英国の旗を建て在りし故砲発を受けざりしが甲板上ニ
在りし少年の兵卒不図小銃を放ちしより賊船急ニ砲を発して烈しく此船ニ
向て砲を打かけしより是ニ依て大ニ損傷を受けしなり其英国旗ハ建し所以ハ
英人エブストルと云ふ者此船中ニ在りて運用の差図をなせし故なり
賊船ハエーグル即ち四天并アミラーロットと名くる船及ヒ今一艘ゴンボートなり
但し他の二艘ハ跡より来りて不戦して去れり
四天ハ元来三本ナ柱ニて烟出しの筒二本有りしか其一ツハ筒を一本にし黒塗ニせ

し故、朝霧のために二本帆柱の船とのみ見えしに依て此方サー〳〵油断せし
間に彼より撃て砲を打掛けられしに此四天と云ふ船そは打ても
至て堅固なる商船にて随分戦争の用にも立つ者にて最初の船ろ
ストーンウォール及び他の官船いつれも蒸気を強く林を初め用意整ひと見
て戦船え走り帰り去らんとするを追ひ掛けて三股森の辺迄追ひ行きしに諸手
船を逐ひえ出すに至ひといへる宜るくなるみ但ストーンウォール彼船を追ひ
て其巨大の砲を放つるらえ流石の四天も敵し難き可し

○大病院にまつし悦我人の内英人メクニギーを改め快復し横浜へ出立せり

同六日出の出板新聞紙ガゼットの譯

今朝フォルカンとゐくる蒸気船三股森より来着す依て左の報告を得たり

官船ストーンウォールを無恙彼港に在り

脱走方の船アシヨーロットまでは〳〵砲丸を受けしかくも沈没するに至らん其船内の兵卒も多分官軍の有とみくし

○同七日出板新聞紙の譯

ある三日蒸気船オタゴ江戸より仙臺を指して出帆す此船も官軍五百人を乗せたり折節北風強くして海上頗る難儀なりし風浪を凌ぎ得て翌四日の第一時る仙臺港へ到着
せり航行の時間凡そ三十一時即ち日本の十五時半ろく坂官軍を悉く上陸せしめ直ち此方へ帰りしに此度は又南風にて船の運用大に便利しころ終に昨六日第四時横濱へ着
す仙臺も平穏の由

○全第九号 三月十六日

蒿萊帰て復び和蘭る佛蘭西陸軍教師の内一人願の通当分暇を遣す旨佛国政府より命令あり

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

右ハ陸軍教師の内ブリュネルと云ふ者去辰秋脱走軍船ニ乗込み北地へ往キ
るゝ多分同人の事ならん
横濱新聞紙ニ箱館追討の事を評して曰官軍の勝敗をストーンラールの存亡ニ関係
す故敵無志ニ於てハ必ず之を一両期ニ
○薩藩の届ケ来る隆人姓名書
薩藩軍監猪鹿倉源四郎ゟの急報ニ依て奥藩より差出しうる所の如し
豎藩兵隊の内戊辰九ニ乗込の人数去月廿五日の戦争ニ船艦相損し無拠二十五六人直松
上陸同日荻野部領通行ニ付森ニ立越ケ途中ニて脱賊百人許砲艦ゟ上陸仕ケ出
逢ひ之有追討ニて七十一人内異人一人隆伏之有盛岡藩ニ引渡し置ケ候旨急報相違申
ケ候別紙名前書相添此段ケ届申上候以上
古川節蔵　笠原賢蔵　四月八日
西村直蔵　大津重之助

松村金七郎　辻　勇五郎
加藤幸蔵　脇屋直三郎
垣屋慎蔵　長谷川勘次郎
谷池津及　井上改治
新嶋与平次　四宮武三郎
関本滝次郎　野間　恭助
伊藤兵助　牧野舜之助
細川治九二門　武　大之進
廣島久吉　柵堀繁次郎
井上源之丞　高橋金次郎
箱館新報告全十三号　五月二日

横田佐之助　吉田金次郎
喜多川常蔵　小林泉九郎
伊藤東太郎　名村一郎
石井八弥　大久保藤太郎
渡邊千之助　松井平助
平井鋼之助　原　録郎
四宮鐘五郎　岡本英弥
婦山大之亟　太尾九金吾
加藤長太郎　伊崎真太郎
外水夫火焚二十七人　外国人二人

去四月旬津藩士より出帳官軍追々管館へ海陸の報告あつし戦争の始末ハ諸説紛々として確ろ不故ら暫く置て記さず然ろに三日前より其文ニ日ハ十九日附青森出帳の蒸気船便ニ託セ着ろ

本月六日脱走賊追討の為海陸両軍江差を出て部より進撃ろ戦争ろ及ひ外賊徒支ふる事不能敗走ニて陸軍ハ陸奥ニ進攻ー松前ハろづら越山道、両所戦争有て何レも官軍勝利ニ松前ハ城を焼て死傷も多く有てしゅ

ご説ろ最初官軍の仆候松前ハ城を無ク出合ひ大敗ー其後二の手と繰出し勝利と得てろと云ふ

右蒸気船乗組人の語ろて海上ハてストリンシール其外の宝船ハ遠ひとろ廿一日頃箱館攻撃ろ有ろと云

当港追討の海陸ハ兵等ろ悉く玉義と出帳ー只跡後を津藩の兵と残ろ仕為

又云松前城下ハ既ニ攻撃有て官軍勝利の実ろ

○四月廿五日出板新聞紙の誤、北地報告

昨廿四日大砲を発ろる報入津ー左の新報を得ろ

官軍蝦夷ハ上陸ー松前を取ろ○模本ハ既ろ逃帰ろ

ー て見ろ○官軍の兵力強盛ろーて戦ふ毎ニ勝を奏ろ○大坂船出帳の時の語ろ其今廿四日箱館を攻撃ろ事ろ聞ろろと○右の如くろれ共不日鎮定の報告有べし

新報 第十五号ヨリ収

先日蒸気ニて官軍へ降伏ー脱走兵隊ろ加ろ居ろ外国人ろ一名吟味有ろ処佛蘭西人ろ申ろ八日佛蘭西ミニストルへ引渡ろ処ろ外国ろ人ろ取扱ハ佛蘭西人の手ニて八ハ社ろ為ろ由ニ付ハ日ろ手宛ろ有ろ筈ろ

箱館新報ロシアルド新聞ろ謬出ろ全第十六号五月九日板所収

ケトロゴンと名くる佛國船箱館より横濱へ到着せり此船中に幽閉されて居る佛蘭西
人數名あり是も皆脱走兵に與せしものなる故なり然るに此輩を達れ歸らしむる
筈なれてサイゴンの成兵とするべしとの風評あり
此船出帆の頃そこそこ官軍と脱走兵との戦争今に未止ざりし脱走兵の方追々敗軍の
報もつたれ共其外支追々官軍の手に入るべし
横濱より歸りし人の話に右佛船の中にて日本人多人數乗り組み居るを見受けたり
人見改めの爲に役人乗込べきに佛の船將堅く斷りて之を許さず依て二面会て載
判所へ呼出す度に引渡すべき筈の由
一説に五月下旬脱走兵大挙して官兵の箱舘を襲ふて福城を襲ふ官軍と勝
ほころび傍ら備を設けたれ共脱走兵大敗して死傷數千と此説話もあり
吾が新聞社へ報知ありしが時日詳ならず且陸路の官報を聞くれば其實
偽を知るに苦しむ

附録

函天と稱せしアニューロット船を第二回天と横濱新聞に見えたり
回天と原名イヂ號蟠龍八原名仁王ぴたりと
○箱舘戦争事 五月廿八日

五月十五日箱舘を出帆せし亜船の報告左の如し
箱舘の景勢弥以て切迫の由乃ち官兵の勢益盛なり脱走の軍船三艘の内回天と
トーンラールより放ちし弾丸中りて移砕し蟠龍を誤て沈没せしめて砂撞一千代田丸
未古船なれ共追々破損せり高鯨一艘ハ三日の入港なり（ヒロウンにて箱舘の北海
陸軍既に亀田の五稜郭を過ぎ箱舘まで一砲声を聞ざるに至れりと
追加新報 五月廿五日 官軍の非勢なる箱舘亀田戦度の到着戦終る官軍の全勝なり殘兵皆降
服し十五月十八日の午後なりと

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

賊兵屡ゝ箱館の市中ニ放火せしが幸ニして焦土と成らず運上所外国人住居等類
焼無キ由尚委しき事ハ次の新聞ニ出へし

○箱館記聞

賊兵悉く降伏の後官軍亀田の五稜郭ニ入り大小砲の布置並ニ兵糧の貯ひ如何の
規矩等を一ゝ巡見せしニ其構成の巧なる事実ニ感嘆ニ堪たり流石ニ榎本大鳥を始め西
洋学術ニ達せしを見るニ足れりと或ル隊長の話なり

官軍箱館ニ上陸し定めて残酷屠殺を恣ニするならんと脱兵も土人も恐怖せしニ思ひの
外静かなる事ニて病院なとへも薩州の隊長自らニ見舞し怪我人を厚く慰問し酒食を
賑給しなとして恩恵を施せし故其事速ニ五稜郭の守兵ニ聞えて終ニ榎本ニ帰順
を勧むる者あり是ニ因テ速ニ落着ニ及ひしとぞ
戦争中ハ死力を尽して相戦ひし降参の日ニ至りてハ上下粛然として謹慎の誠を
表しサール騒擾の事無き由

官軍の死傷二百余人賊兵の方ハ余程動しき死亡なるへし怪我人ハ追々東京の病院
へ来るべし

賊兵の内サゝ勢州を除て再ビ脱走せしものあり是ハ長州の兵隊速ニ追討ある由

仝九八号 八月十五日出板 榎本釜次郎大島圭介等格別の寛典を以て死一等を宥められ永禁錮と
なり脱走の兵卒ハ追々各藩へ御預ケニ相成りし由

医師松本良順ハ静岡藩邸中ニ於て謹慎被仰付候由

日本人亜墨利加ニ移住の事 仝四号所載 カリホルニヤ新聞紙ニ出ツ

スチル氏の説ニ日本植民の地ハプラセルフィールドを去る四里半の処ニして移住せ
し者ハ多く会津の人なり此地桑及び茶を植るニ甚適宜の土地ニて大凡六百アクルの地なり
一アクルハ一向坪千二百十個ニあたる故ニ六百アクルハ我二百町余なり

此地従来葡萄多く他の樹木も有り人家もあり牛馬多く車等も設け備わり水も好き宜し
地税五千ドルとう
スヲル此地を名づけてワカマツとふ日本人の家毎に
り且茶を製して産出すべき手続を定めとう
中竹と漆樹を多く植そへもの竹で日用の器什細工物を用ひて有益なる者ゆえ
其筍の幼とう者を食りてアスペルジュ代りすべし○茶も亦甚だ好むのみならず其実を搾りて油を得べし唐国李白のゆへ是と
の漆樹より漆の流れ出るを取る法も松樹より
る者多し利益あり（ハゼウルシとも云）○此地天生の櫛樹多く伝て日本産の山ものと考ふる亦巨大
美の農の薗を得とう
日本人で最好みて魚を食ふ故に魚を美ふす故に魚を善く取る他の婦女の比に非ず
―そこで次ぎ
第一日本人の今ふする行を称作するも亦難とう
スヲル氏の妻にて日本の婦人にて能く他の婦女の伝をとうとう

義ヲ重ンジ密ニ謀シナストテ何分衆寡難敵依之江刺詰ノ重役志ヲ専ラトシ八月十八日
ノ夜江積（サシ）家中ノ今般城下表ヲ徳川脱走之渡来ニ付急速出張致ス候間有志者可有出張
ト触途中迄総人数出張致シ途中ニテ賊徒渡来ハ謀計今般主君御身上一大事出来
候而有志ノ者ハ出張アルベシトノ故途中ヨリ帰宅ノ者ヲ有之二十余人計リ廿九日ノ夜五時
頃城下ヘ着致シ此所ニテ賊兵隊入城致シ候ト聞キ急城致セトニ有志五十
人余ニテ八方ノ門ヲ堅メ入城ヲ不許ヲ致町役所ヘ集会已ニ戦争ニ及ンド致スサリナガラ先ッン
ジテ人ヲ制スルノ理ナニハ武器銃薬等ハ城中ニ有之ハ故是非ナリ引取ル有志ノ者ハ

此地従来葡萄多く他の樹木も有る人家もあり牛馬多く事等し改て備ふる水を発る宜し
地税五千ドルころ
スプル此地を名づけてワカマツとよぶ日本人の家ある家と茶とを植ゑ
り且茶を製して売出すべき手続を定めんう其他鉢の土地ども日本行の有益なる樹木試
中竹と漆樹を多く植ゑんも〇竹て日用の器什細工物を用ひて有益なる者と而
其筍の幼ふる者を今りてアスペルジに代ふべし〇茶ども、其葉を用ふるのみならず其実よ
すべし〇茶ども、其葉を用ふるのみならず其実よ

(二)在江刺醫師堀内行藏書通　高井郡綿内邑人

攻
政
詐

権当国騒乱の始ハ昨秋八月中松前家老臣松前舜由トスルモノ執権ノ職ヲ奪ヒ
ン奥州仙臺ホノ賊ニ組シ島ノ主ト成ラントヲ企テ、家中七分ハ舜由ニ組シ八朔ニ事成
就セント謀リシニ心直ナル木織太郎坂崎民部其徒二十人余憤発シテノ逆臣ヲ害シ君王ノ
義ヲ重ンジ密ニ謀シナストキハ何分衆寡難敵依之江刺詰ノ重役忠ヲ専ラトシ八月九日
ノ夜江積(サシ)家中ノ人ヲ般城下表ニ徳川脱走ノ渡来ニ付急速出張致シ候間有志者可有出張
ト触途中迄総人数出張致シ途中ニテ賊徒渡来ハ謀計ニテ般主君御身上一大事出来
候而有志ノ者ハ出張アルベシトノ故途中ヨリ帰宅ノ者ニ有之二十余人計リ其九日ノ夜五時
頃城下ニ着致シ此所戦ヲ始何ノコトヲ江刺兵隊入城致シ候ト聞キ登城致セトニ有志五十
人余ニテ八方ノ門ヲ堅メ入城ヲ不許故町役所ニ集会已ニ戦争ニ及ントス致スサリナガラ先ヲシ
ニテ人ヲ制スルノ理ナシ武器銃薬等ハ城中ニ有之ハ故是非ナリ引取ル有志ノ者ハ

主君ヲ守護シ其ヨリ九月一日賊長鮮由山下結城其外頭分ノ者十四人ニ兵隊
差向新刀ニ及ニ夫故徒黨ニ恐怖致シ事ナク治リ候ヘ共混乱大カタナラス九月
中旬漸々平定致シ処処近々徳川脱士海渡之由ニテ當江刺ヨリ七里程北宇ナ
舘ト云ヘ新城ヲ築ホト定リ市在之人夫十五才以上ハ不残夫役ニテ誠ニ大閙ノ三日
城モカリヤラント眼ヲ驚シ候左ナク何分実サヌ日ニ増ニ廣野濕地請中半ノ所ヘ十
月中旬脱士ノ者管舘在敷鳥ノ木村ヘ碇泊ヨリ上陸遂ニ箱舘城モ落陽ニ相成リ松前表
ヨリ神来ハ故君侯始メ連枝方老弱新城ヘ御移リト相成リ得共何分柵等モ出来兼殊ニ籠
ノ敵士戦争ノ毎ニ敗シ十一月十九日烈風ヲ犯シ主従後ヘ七十余人能登石村ト云所ヨリ乗舩
ニ初而リ津軽ノ平舘ト云所ヘ着舩致シ君侯ニハ天朝ヘ申訳ケニ憤死覚悟其後
賊領ト成リ候
十一月十五日ハ江刺湊ヘ賊艦南陽丸ト云ヲ本一二ノ砂舩沖ヨリ発砲是又恐怖致シ其夜
湊口ニ碇泊ノ所夜半烈風起リ岩上ニ乗上ケ一時ニ破舩ス
其后又ハ開天丸神速丸二艘渡来ノ所夕刻ヨリ風起リ開天丸ハ大舩ノ為ニ乱故沖
ヘ走リハ得受神速ハ小舩故又ハ破舩致シハ賊運ノ尽ル処ナルベシ
其ヨリ市在支用金ノ申付當春迄ノ中ニ五度計リ筑ニ應心ノ化物高二ヵ二ヶ両余是ニテ市中
大困窮ス春ヲ入舩不足米ノ高斜申迄ニ無之官軍ヲ待ツ子赤子ノ母ヲ待如シ漸ニ四月九日
早朝沖中ニ二舩軍艦見エ市中ノ混乱賊徒海防ノ人数駢キ立親ヲ捨妻子ヲ抱ヘ家
財ノ搶ヒヲ計リヲ多ク其中ヲクク近附テ都合九艘ト相成リ江刺ヨリ北三里ヲ部村ト云
所ヨリ上陸其節官軍ヨリ松前先鋒隊十七人小舟ニテ上陸ノ所賊軍湯ノ原ト云所ニ陣
取ル二大隊ニテ業ヲ開ク後詰ハ大舩ヨリ小舟ニ乗移ルト叫ハス短兵急ニ打出ス故十七人ニ
テ能ク接スルト小半時余リノ内ニ賊ノ隊長ヲ打落シ其外手負討死十余人ニ候故賊
敗走ス其ヨリ漸ク小舟ニ乗移リ多人数上陸ト相成リハ其砂先鋒隊ニハ一人モ手負ナ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

し夫より其日戦争場三ケ所賊敗走遂ニ江刺ハ不戦走り無事ニ平定致スソレより城下
表へ進発ス
其夜潜伏ノ賊徒生捕ノ賊百人許又松前家来ニテ賊ニ組シ仕候者十七人有之是ニ同
断ニ捕是ヲ内賊ト路シ罪賊より重ク申座候
五月十七日管舘ニ平定致シ候ソレ迄戦争ノ場所左之通
七部湯ノ原　モノサ三度　城下　城下より箱舘街道
江刺より管舘街道新道鶏村峠　是ハ大難所賊共小大ノ土塁場築キ
目ノ下ニ打官軍ハ峠ニ〻賊百軍度々
其レより両道相合シ
七重村　七重濱　赤川村　大川村　函軍ハ管舘漆口ニテ
大戦争　五稜郭
管舘市中　是ハ賊ノ地富火三ヶ所
市中三分余焼失
弥廿日ニ平定生捕ノ賊千余ニ〻座ハ賊船不残打破レ
官軍討死ノ負九人ノ賊徒三千余ノ管舘在有川村ト
松ノ木ニ〻四月十一日より官軍大病院診察方被仰付候故寸暇ニ〻管舘ニ
ニ〻ヘ出張致シ漆口海軍又赤川村ノ陸軍ハ眼前ニ見ル致シ候得共筆紙ニ述難候
官軍ニハ世界第一ノ妙器甲鉄艦賊ニハ水上ノ城ト号スル開天艦其外伴龍丸千代田丸ノ三艘
官軍ニハ甲鉄丸春日丸長陽丸ノ三艘戦ハ佛國ノ教師乗込其上真傳ノ戦士誠ニ
眼ラサマシ申候又赤川村ノ戦争ハ大小砲ノ墓場ヲ等キ官兵ハ廣野ニ楯ニナリ
人数ニテ押懸リ朝六ツ半頃より夕六ツ迄ノ戦争是ニ同断目覚シ申候名ニ共ニ
銃創人治療ニテ身體血ダラケニナリ申候赤川村中ハ昼八ツ時戦ノ墓場ヲ破リ候節
ハ又戦ト想成其砲ハ凡二丁半計リノ所ハ足ノクロブレノ所迄無ニヌカリ申候
始メ鉋発ニ聞ヘ候得共二時ニ過ニ候得ハ眼ニ煙リカ見エ迫鉋聲ハサラニ
ナラズ玉ノ飛ブハ只蝿ノ飛ブニ異ナラス候

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

巨細戦争ノ次第ハ太政官日誌箱館賊艦事件等一ヨリ御覧可被下
拙筆ニハ千分之一ヲ申上ル迄ニ覚束ナシ
敦士討死ハ神葬祭ニテ江刺ニテ角力取山ト云ニ葬 戦死三百余人春秋祭禮ハ
天朝ニテ美麗ノ譜請ニ而座候

右長直生ノ所示庚午大日夜燈下写

三 近頃新聞

一 十月八日松本管下各郷村ヨリ出役宮宰線ニ五人組改以上ノ唱集メ大ニ衆望ニ下村役人
衆望ニ違ヒ候ヲ以テ札改ヲ村ニ名ヲ組改ヲ張ラシメ且ツ役人ヲ始メ村ニ名ヲ
改ヲ為ス事ニ下ル 其実ハ衆ヲ集ムル事ヲ禁ズル為ニ出ル事ニ
元ヲ称ヘ一時ノ参詣ヲ禁ズルト云ヘドモ苛刻ニ過ルヨリ廃ス

積年ノ契堂猶ノ村長ヲ実ノ深ヲ
那県管下八月発後ノ口宮申ニ依テ
一 越前人云々ノ銘ノ矢作場ヲ今年ヨリ六行ト改ル
銘ヲ毎辺ニ即人ヲ此ノ取参ニ依テ義死ヲ為ス侍ノ
終テトカヲ以テ為ス侍ノ銘ヲ以テ為ス写
ヌノ称ヲ以テ為ス

一 十月五日ヨリ藩治ノ厳令歴ヲ以テ年号ヲ明治ト改ム

旧細戦争ノ次第ハ太政官日誌箱館賊艦事件等一ヨリ御覧可被下

拙筆ニハ千分之一ヲ申上ル迄ニ不至候

敦土討死ノ神葬祭ニテ江刺ニテ角力取山ト云ニ葬 戦死二百余人春秋祭禮ハ

天朝ニテ美麗ノ譜請ニ而至候

右長直生所示庚午大日夜燈下写

三 近頃新聞

一十二月八日松本管下各郷村ヨリ出役宿寄幸隆寺ヲ本営ト定メ夫ヨリ段々上ノ噂信ズベカラズ大庄屋ヨリ下村役人ヲ召集メ取調ノ上分担ヲ以テ人夫ヲ組織シ取ノ方ヨリ進撃セシメ且ツ役人ヲ始メ出役ノ者ニ至ル迄ノ姓名ヲ記シ置カザルヨウ下ヨリ注意セシ上ニテ下ヨリ注進ノ文書ヲ取纏メ本営ニ差出サシメ又本営ニテハ傍ラ之ヲ書写シ置キ万一ノ間違ヲ生ジザルヨウ注意セシ上ニテ本営ヨリ差出シタル文書ヲ受取リ之ヲ取調ベ一時ノ多事ニ紛レ苟モ間違ノ出来ザルヨウ注意セシ由ニテ実ニ行届キタル事ト感心セリ

一越前人ニテ高額ノ矢作場ヲ手広ク営ミ居リシ者ニテ十月廿日後ノ口実ニテ人夫ヲ組織シ取ノ方ヨリ進撃セシ由ニテ実ニ行届キタル事ト感心セリ

一十月五日ヨリ陸沿岸ノ諸藩ヨリ出張ノ者追々引揚ケ

山洋堂

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

日誌箱館賊艦事件等一ヨリ御覧可被下
迫ニ至ル
角力取山ト云ニ葬 戦死三百余人春秋祭禮ハ
候

此條亦仁孝ノ言ノ如ク校訂ヲ大抵可ナリ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

一北越戦争又一隊指揮シ三条ニ出ス而シテ官軍ノ長岡ヲ奪還スルニ及ヒ命ヲ受ケ一隊ヲ率ヒ小千谷ニ出張シ
一十八日戊辰ノ役ニ当リ命ヲ受ケ一番隊長ニ任シ
近藤鉄三郎　大口ノ二役ヲ
下本勝之進　　下士長
右助役ニ命シ各自ノ部下ヲ率ヒ士官学校ニ入リ故ニ
ニ一カラス差シテ場内ニ去テ出征ノ準備ヲ為シ右
官ノ残務ヲ処理シタル事
第一等ノ如シ後チ紀念ノ為メ相当ノ賞与アリ
○重臣藤堂衛守ニ従ヒ名古屋ニ下士長ヲ
命ニ半大隊ノ小隊副長或ハ大隊ノ参謀ヲ
割ヲ以テ又明治十年第一先練ノ撰ニ預リ教師トスル
改正後僅ニ学ノ許ニ于一人ニ数人ニ当リ第十等

一 衣服制度定ラル由遡ノ公武ノ頃ニハ未ダ認メラレ
ズ定ラズ又徽章ホドモ無ク各々由緒ノ
一上田ノ漢戎服ノ袖ニ筋ノ紋ヲ附テ等ノ
有リ是ハ陣中ニ服飾ヲ以テ尊卑ヲ
ヲ通ジ一ノ説ニ各戦国ノ時ヨリ始ル
ヲ以テ今ニ至ル迄其ノ皆継ヲ
ヲ今我ガ国ノ風俗ニ於テ
偶ニ在リ形ノ異ナル
ニテ又ナク落ニテ雪用ル戎服ノ包ト
眼ニ視テ一ノ下ニ又手常ニ
服スルヤ如ニ故ニ我ガ美トシ
服ニシテ古ノ衣ノ古ヲ
ヲ以テ学ノ校中ニ模シ作ル
ヲ以テ今ニ至ル迄其ノ
作ルヲ多ク
ヤ方ニ
然ハ今ノ兵
代ルヘシト云

一 山岸新銀ノ一刀ヲ持来ル是ハ
ノ如何ニ御ヲ
某藏皆
ノミニ
トニ云

一 最新ノ

仏式兵隊後ホツ
兵隊詞体〆不
及ヨ今士作家
中之

以テ學校中ニ於テ佛式ニ練熟セシ二三人ヲ請テ調練セシムヘシ今夏新潟兵隊ヨリ
佛蘭西ヨリ師ヲ請ハンコトヲ望ム或ハ吾兵ノ隠ルヘキ所アラハ日或人云官院
也方十里ニ於テ人ヲ避サシメ許ス例モ其十里ヲ限リ兵隊ヲ備ニトスル儀アリ
然レハ今ノ出兵出原ニ在テ出ルヘシ又大垣長府ハ各三大隊ヲ出シテモ以各所ヘ
屯戍スルナラントト云　按今夏戍兵ノ在ル所ハ新潟村上加茂ホナリ今其代リ欤又柏崎法川モ望ナラン欤

一 此節新銀ノ一刀ヲ持来ホセリ是云頃ヒ命セル御天小ノ一ニ十八日ニ一刀其等緑刀一ツ納ム名四但二刀ノ内何モ之御是ヲ命セル二ヲ出ス又緑刀一ツヲ命名ル刀ハ加藤ノ蔵ヨレノボウ刀緑刀ハ大阪ノ某蔵皆鄉ヲ模スル之國ニ於ルノ上モ刀文ノ乱大ニ甚ク似タリ（其ノ刀ノ如キ乱刃ヲ焼モノ古刀ニ多ク弘新刀ニ虎徹真是ニ入ルト云）ノミ之一刀四十七ハ二十五両ヲ費ストトニ云テ代銀ノ者ナキ見ル也緑刀ハ七両ナリト云刀ノ厚達シテ見事ナル業ナリ其鍛ノ不研モノ之刀劍ノ便ナル一ノ銘ナルモ出山ト云

一 黒鞘ハ年行ノ故御預知縣判事ト云

一 衣服制度定メ有ルヘシ四邊日本風俗ニモ未タ改革ハ不実ニ日今度出兵ニテモ服制ヲ定メテ又徽章ホモ未タ定マラス四 禁令及出張兵隊ノ式モ未タ備ハラス定ムヘシ

一 上田藩戎服ノ袖ニ紋ヲ附テ等ノ如キ陣中ニ取籠ニ或ハ暑ニ依テ是ヲ為シ又テ未タ詳ナラス西洋各國戎服ニ至テハ勿論士官ノ服ハ美飾ヲ附テ敵ノ狙撃ヲ避ル其ノ説ハ吾戦國ノ時大将ノ指旗ヲ棒テ勇ヲ示ス如キ戎ニ亦スコシ異ナル所アリト云

我兵卒ノ用ル各種ノ上衣色ノ如キハ下卒ノ服ニ上下ノ別アリ商人ノ者ナリ偶々仕込ノ者ニ用ルテ又兵卒ノ服用ハ西洋士官（ロイテナント以上）ハ戎服ニ一定ノ信ニ有ルモ又本藩ニテ専用ル戎服ノ色杜丹ハ役ノ喪服ヲテ喪礼ニ用ル也服ヲ是ホ我國人ノ眼ニ視テ何ト云フ又学者云ク洋夷人ハ自國ノ古衣ヲ改ヲ服ニ勝裸ノ如衣ハ陣羽織ノ服スルカ如ニ故ニ我カ夷ト云フ賤キ今皇國人ヲ見テ洋人ハ夷ト称スルモ不可ナリ唯衣服ニヨテ又其ノ古礼ヲ棄シ人ニ溺ハ直情径行ナリ往トシテ夷ナラサレハ未タ習ヘ洋人肉食

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一 越石氏辛出役後ノ事又左ノ如シ

神鉾十士　　岩下神下士　　水野
　　ヲ井宮内　　中村嘉一郎　　暮宮和人ナレハ辛之楯ヲノ如キ者ナレハ後ノ
　　奥山八十治　　小林大二郎　　当田徳雄　　大ハ苦ヘトモ云
　　林　宮田　　月岡徳治　　栃沢多吉

一 錦辛ホ今久ヲ後和次合不熟ノ如ク辛ヲ
往ふ治制高ノ形ヲ中ヲ以テ花高ノ
日高士ハ神統日ヲ以テ北征ノ錦辛ヲ
不為下ヲ人ヲ不從ヲ士ヲ大ヲ高ヲ
後後ヲ陽列ヲ就ヲ甲斐兵ノ辛ヲ
ヲ北往ヲ日ヲ下ヲ日ヲ後ヲ辛ヲ往ヲ
一 高ヲ甲斐ノ戦士ホヲ高ヲ十月数許ノ後又申出北征ノ挙士ヲ

高橋権助亭
ヲ多ヲ高
行期日ヲ不定
ヲ後ヲ陽ヲ
後往ヲ

一 大坂兵ヲ海北行ノ先鋒高ヲ○東京今軍監一人出ル由ヲ黒松ノ例ヲレハ
水原県ノ別ヲ軍機局ヲ建テ戍兵蕩軍監ヲ此ヲ会津セシメ事ヲ相ヲ手ヲ楷望スル
故ニ故此ヲ出居ヲ機ヲ頭ヲ人ヲ為ヲ配ヲ始ヲ那ヲ利ヲ得ヲレ今加藤望監ヲ
ヲ処ル例ヲ出ルヲ都合ハナレハヲ○若松ヘ
ヲ処ル例ヲ出ルヲ都合ハナレハヲ○若松ヘ実ニ二人水野綱太郎ニ宮新庵楯ヲ

一 越後ノ長谷川ヘ仙ヲ吉野男太郎ヲリヲ今度ヲ吉野

一 大垣兵ヲ海北行ノ先鋒高ヲ○東京今軍監一人出ル由ヲ黒松ノ例ヲレハ
水原県ノ別ヲ軍機局ヲ建テ戍兵蕩軍監ヲ此ヲ会津セシメ事ヲ相ヲ手ヲ楷望スル
故ニ故此ヲ出居ヲ機ヲ頭ヲ人ヲ為ヲ配ヲ始ヲ那ヲ利ヲ得ヲレ今加藤望監ヲ
ヲ処ル例ヲ出ルヲ都合ハナレハヲ○若松ヘ実ニ二人水野綱太郎ニ宮新庵楯ヲ

一 越後ノ長谷川ヘ仙ヲ吉野男太郎ヲリヲ今度ヲ吉野

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

一 九四日金友東京ヶ走ル飯ル社一日ニ天下之大変不日ニ
悔ニタリ笑ヒテ何事ヲカ何ノ利ヲ可
ノ事ヲ北命非ニテ人心指諸ヲ
ヲ無ク不都合ニナリシカ後ノ
ラ叱ヒテ云フトソロ〻都ノ人心
推下ニテ云ヒ者ヲ東ヲ結ノ
西ヲ走リ鎮座ノ為リ得ヲ
一朝廷経用不給諸藩貴典
十二月其一ニノ暇ヲ
年ノ貴禄何ノ恃ニ
一金友武敏ヶ悩演山喫屋ニ

一望月牧ハ古昔名多ク見馬ノ
称遺リ其垣塊ヲ定ムル
ヶ詞到ル
十ロ一田水ヲ
之元共石ノ家ニ
一上田藩ニ過ル
水ヲ
昇政恒川文八郎
く

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

花様ヒ歸ニ事ハ惣ノ彼カ之先ニ乃一ヶ所モノ之ニ我首ヲ取ル、大ヲ除ク無之ト云ヒ候故
白ハ四方ノ明ニ存ト云由ニ大ニ喜悦之一同ハ下直ニトテ出仕致ニ実疾ニハヤル一カラ
ズト評セリ兵事再興ハ又今ニ及ヒ在先ハ新ニ成無治高ト傳ヘ申付ニナリ候ト[illegible]流や

一 望月牧ハ古昔有名之貢馬八十疋ヲ出タル大牧之今名ノミ 御牧ト云 七ヶ所方三里ニ及テ土甚宜
猶遺ノ其域堺モ定ラスシテ馬ヲ不見ヽ三 私領 数ヶ村入会稼場之所ニ新ノ後諸々所ノ一驚 元ヨリ[illegible]
起ノ評判セン々村々割地シテ一円ノ耕作ヲ講ノ為其用水ノ為大地ヲ作ル 其工ハ成就セサル所下丘
十日ノ用水ヲ一の支開闢ノ堤一寸ニ培築ニ二千両ヲ一の費ト云 今年開墾ノ為所費金五六萬両
之元五六百両ノ家ニ之 説ノ[illegible]ルト云ヲ郷之一驚 計略ニ出ル由成功ノ後ハ若干ノ金 得ト云

一 上田藩之適福ノ如家ハ志ヲ致ス斎名モ多クタル由然ニ師岡金銘ハ不及横田也[illegible]
水ト号ル田古官名ハ不忘ト見ヘテ左右衛門兵衛々等ハ[illegible]之の山口平太郎学ヲ罷 大参事
昇級 恒川才八郎督学ト ナリタル由 [illegible] 学校ノ[illegible]

一 九四日金友東京ヶ走仮ル 廿一日発 其説ニ天下之大変不日ニの発兆アリ朝野ノ心
怕ニ乂リ然トテ何事ヲテ何ノ処ヲ可起ト云諸藩ハ見ルヘカラス一ヨリ十ニ至ルマデ両
ノ政事北面非ニシテ人心摇揺安堵ナラサルや 就中 他外 国ニ迄入タル虚揺頻ニ有
之毎ニ不都合ノコトナリシカ後ノ何トカ乱揺ヤヽ我方ニ理義アリテ後ニ消息
ヲ吐タルト云コトソロ京都ノ人心安不穏何方カニ何者起リテ不日東京ヘ
推下ニコトト云噂有之 東京之情ノ由彦根伏見原ヶハ諸藩会三拾万ノ兵隊急、
西京ハ上リ鎮壓ノ命ヲ得テ発行セル由是又何事何如ナル発スルヤ未知得申之

一 朝廷経用不給 諸藩貢典如彼ナレ 今年三分之一ヲ賜リ 来年七月其ノ一
三月其ノ一ツヽの賜来ルナラハ残テの給トノコトナル由始メヨリ不信如斯モハ来
年ノ貢禄何ノ情ニ可ル ヘキト云由之

一 金友武敏ヶ横濱山城屋 実長州ニテ兵隊ノ長 へ宿ス 野村光蔵 ニテ隊長ヲ持テ行クル処

三冬文庫

北宋古刻

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

様ニ衛卒ノ拔ケ去ル等ノ事アラハ一二日ノ等閑ナル能ハス大方化邪ノ
ム我ノ右ノ手不休動ヲ以テ尋得ントテ明ル由ヲ
日ノ頃ヲ以テ即今ノ家ヲ作ル者不ル数ヲ
一右ノ項ニ於テ或ハ兵三箱ノ中ニ一ツ赤糸系ノ糸ヲ以テ
三十五年ニ限リ一條紙黒ノ戎服二ツ以テ
之ヲ以テ前ニ如キ本法ノ無ヲ以テ
一十二日相并ニ東京発足ニテ豊祿三ノ一ヲ
延ル師ニ十出役北方ノ
宿舘ノ豊ル事ヲ以テ
祖師ニテル一ノ年ニ二千許人ノ豊ヲ以テ
引セ又ヲ以テ改不拘ノ為ニ
人ノ如キ此ノ豊ニ於テ四議事退屈ヲ以テ
豊文例ヲ作ル次第
一本藩海岸ノ何ル
処ニ和蘭ノ事ヲ以テ
処ニ和ノ官准ニ不待ニテ行ル事ヲ以テ
ヲ有ルヲ以テ
今度ニ
人手ヲ以テ
一三万石ニ五ヲ豊俸金七万何両ニ
代金ヲ以テ
二名ハ素社ニ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

六月五日

一　近日管内ニ於テ横目方ニ附酒井新兵衛久保田義ト名乗リ四村ニ入リ新年ハ田町八田別荘
数年来[illegible]ノ銘書[illegible]者之ニ一二町次ク入字セリ因テハ役者ハ未知ト伊勢宮近ノ者ニ尋

一　戸隠神領ハ従前管轄ヲ致シタル大政官ノ符ヲ排ル所ヲ起ス近頃中野局ハ神祇官ノ命アリ
伊那縣ノ管轄ニテ右縣ヨリ役人ヲ遣シ[illegible]本藩ニ於テ承知[illegible]戸隠人[illegible]
両備中ニ其為ニ[illegible]命ハ不知ト答ヘ即官ヘ伺ヒ[illegible]戸隠神
之ニ[illegible]今般[illegible]此事[illegible]石硯[illegible]社人中[illegible]
[illegible]一ハ[illegible]

東隠十二郎[illegible]
粟田大膳一[illegible]
久山保一[illegible]

一　某年川田村者[illegible]
北方犯人[illegible]村下[illegible]
[illegible]法官ノ裁断違[illegible]実ハ中仲官[illegible]
婦ノ実家[illegible]

[illegible]如ク裁断[illegible]事故[illegible]
[illegible]他村ヘ行テ不在[illegible]捕ヘ[illegible]
[illegible]思ヒ[illegible]此[illegible]
[illegible]ノ実ヲ[illegible]官[illegible]
[illegible]中[illegible]テ不肯[illegible]不敢ノ[illegible]
[illegible]草間ノ[illegible]
○草間[illegible]引[illegible]

七月一日
一　今日[illegible]山八千許人由　一　[illegible]中傳一年
[illegible]兵小[illegible]　近侍

久保植人
梶田[illegible]
[illegible]六蔵
小山田[illegible]

[illegible]君側[illegible]後宮[illegible]

一 近日管内ヲ横目方ヨリ御領再新並御小久保田等ト名ヲ乗リ四村ヲ廻リ新年ハ田ノ八田別荘ノ数ヲ年々ヨリ少ノ銘酒ヲ持ち廻ル者アレ一ニ次ノ人家ヲ廻ル者ハ未知ノ伊勢宮遣ノ者ヲ

一 戸隠神領ハ紋管轄ニ候ヘ共ハ大政官ノ答ハ拙ク所ト思ヒ近頃中ノ御神祇官ノ命ヲ

東陵十二神ヲ
案内大祓一章
久小保一章ヲ

伊那縣ニ管轄ニ乗リ替ヘ候ヲ聞ヲ驚キ死ヲ決シ訴ヘ出ルヲ本藩ヨリ文ヲ以テ再藩人ヨリ

再復中ヲ其筋ニ引受ケ命ハ不知ト答ヘ乍ラ再ビ官ニ伺ヒ出ル迄ハ手ヲ下ス事ハ出来ヌト

ヲ以テ今般手ヲ引キ帰藩ニ及ビ候ヲ聞ヲ驚キ再ビ藩ニ従ヒ候ヨリ此事ハ新ハ

一 嘉永川辺村者偽婦ヲ殺シ利欲ヲシ死ノ体ニ装ヒ

北ノ犯人ハ未ダ捕ラヘ不申候ヘ共近頃朝廷ニ死罪ヲ伺ヒ出ル処昨日ハ

ヲ以テ村下ヲ為シ置ヲ参ル近頃ヨリ始メヲ草刈ヲ不出賄賂ヲ貪リ且

寡婦ノ実家呉清ノ者ヲ面ヲ侵ス様ノ手ヲ伸ヲ候ヲ聞ヲ驚キ再ビ

後ヲ見ル由ヲ答ヘ如ク裁判ヲ事故多ク捕ヲ捕ヘ

祈ル為ト称シ他村ヲ行ヲ不在ヲ捕ヘ捕ヘ参ルヲ

ヲ侵ス様ニ思ヒ込ンヲ如此ヲ急ニ引参ルヲ人ヲ

殺害ノ実ヲ露ハ

ホヲ申ス迄ヲ不当ノ不敬ノ罪ヘタヒヲ

サル草刈ノ急ヲ又甚ヲ

一 今日四ツ山ヘ千許人ノ

鉄兵小隊七物ヲ

久保様人
福田様ヲ
矢野六蔵
小山田久米

国立国会図書館　タイトル『不徴迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

日誌百四十号 東京版第七十三十二月二日己亥 御布告写

一 先般各藩大義名分之処壊ニ及シ海外諸国之形勢ヲ察シ其封土ヲ奉還ス依
ト其ニ綱紀ヲ更張被遊度
被為思召藩々ニ於而モ維新之御
称被廃都テ士族及卒ト称
旨被 仰出候条萬ト

御主意ヲ奉戴シ銘々分ヲ守リ其職ヲ
勉励シ忠誠ヲ尽シ朝廷ヨリ
被仰付候事ハ勿論ノ儀ニ候ヘ共
旦中ニハ御不審ノ筋モ
可有之哉ニ付
別紙ノ通
被仰出候間
一般ノ者ニ至ル迄
篤ト
可相心得候事

但士ニ於テ扶持致シ候後ハ一切
相廃之御布告ノ
御趣意ヲ以テ
御処置可被遊候事

右ノ通
被仰出候事

二四日第二二万石賞典ノ中伺経過十五万石ノ内ヲ以テ
旧来ノ諸侯ヲ始メ一般ノ家禄ヲ減スルニ付テハ
其藩一般ノ人民ニ至ル迄
各其分ヲ守リ
勉励シ
忠誠ヲ尽シ
朝廷ヨリ
被仰付候事ハ勿論ノ儀ニ候ヘ共
旦中ニハ
御不審ノ筋モ
可有之哉ニ付
別紙ノ通
被仰出候間
一般ノ者ニ至ル迄
篤ト
可相心得候事

但士ニ於テ扶持致シ候後ハ一切
相廃之御布告ノ
御趣意ヲ以テ
御処置可被遊候事

右ノ通
被仰出候事

二四日第二二万石賞典ノ中伺経過十五万石ノ内ヲ以テ
旧来ノ諸侯ヲ始メ一般ノ家禄ヲ減スルニ付テハ
其藩一般ノ人民ニ至ル迄
各其分ヲ守リ
勉励シ
忠誠ヲ尽シ
朝廷ヨリ
被仰付候事ハ勿論ノ儀ニ候ヘ共
旦中ニハ
御不審ノ筋モ
可有之哉ニ付
別紙ノ通
被仰出候間
一般ノ者ニ至ル迄
篤ト
可相心得候事

但士ニ於テ扶持致シ候後ハ一切
相廃之御布告ノ
御趣意ヲ以テ
御処置可被遊候事

右ノ通
被仰出候事

二四日第二二万石賞典ノ中伺経過十五万石ノ内ヲ以テ
旧来ノ諸侯ヲ始メ一般ノ家禄ヲ減スルニ付テハ
其藩一般ノ人民ニ至ル迄
各其分ヲ守リ
勉励シ
忠誠ヲ尽シ
朝廷ヨリ
被仰付候事ハ勿論ノ儀ニ候ヘ共
旦中ニハ
御不審ノ筋モ
可有之哉ニ付
別紙ノ通
被仰出候間
一般ノ者ニ至ル迄
篤ト
可相心得候事

但士ニ於テ扶持致シ候後ハ一切
相廃之御布告ノ
御趣意ヲ以テ
御処置可被遊候事

右ノ通
被仰出候事

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

日誌百乃ち東京城第七十三十二月二日己亥　御布告写

一　先般各藩大義名分之文名環ヶ正ヶ海外諸国之形勢ヲ察レ以テ其封土ヲ奉還ス依テ大ニ公論衆議ヲ被盡（ママ）藩屏一途之政令ニ帰シ天下ト共ニ綱紀ヲ更張被遊度御主意ニ付更ニ知藩事ニ被仰付候間家禄之制被為定藩々ニ於テも維新之御政體ニ基キ追々改正可致就而者中下大夫士以下之称被廃都テ士族及卒ト称禄制被相定候迄其地方官ニ於テ可為管轄旨被仰出候条萬ト御主意ヲ奉體ヲ銘々分ヲ守リ其職ヲ尽ス様可致事

但知行所一同上知被仰付候

一　大夫士以下之面々分家禄御定相成候迄ハ従前之俸禄ヲ以テ賜候ニ付而者其家事ヲ二代以上相続之者ハ相応之御扶助可被下候間姓名ヲ具シ従前之俸禄米等取調早々可申出事

但四至ニ於テ扶持致シ候者ハ一同為賜米事

二四日第二二万石壹典ノ中何程通ヲ五万ノ率ノ書類ヲ以テ可申出事

一　従来諸藩ニ於テ門閥ヲ以テ人材ヲ登用シ来リ候ニ付而者其門閥ヲ廃シ才能ヲ以テ人材ヲ登用シ候様可致事

一　従来諸藩ニ於テ文学ヲ以テ教導ノ基本ト致シ来リ候ニ付而者其文学ヲ廃シ候ニハ無之候得共其流弊ニ陥リ候者モ不尠ニ付而者其文学ノ用ヲ主トシ武芸ヲ従トシ文武ノ両道ヲ以テ人材ヲ養成可致事

一　従来諸藩ニ於テ武芸ヲ以テ教導ノ基本ト致シ来リ候ニ付而者其武芸ヲ廃シ候ニハ無之候得共其流弊ニ陥リ候者モ不尠ニ付而者其武芸ノ用ヲ主トシ文学ヲ従トシ文武ノ両道ヲ以テ人材ヲ養成可致事

一　従来諸藩ニ於テ門閥ヲ以テ人材ヲ登用シ来リ候ニ付而者其門閥ヲ廃シ才能ヲ以テ人材ヲ登用シ候様可致事

一　従来諸藩ニ於テ文学ヲ以テ教導ノ基本ト致シ来リ候ニ付而者其文学ヲ廃シ候ニハ無之候得共其流弊ニ陥リ候者モ不尠ニ付而者其文学ノ用ヲ主トシ武芸ヲ従トシ文武ノ両道ヲ以テ人材ヲ養成可致事

一　従来諸藩ニ於テ武芸ヲ以テ教導ノ基本ト致シ来リ候ニ付而者其武芸ヲ廃シ候ニハ無之候得共其流弊ニ陥リ候者モ不尠ニ付而者其武芸ノ用ヲ主トシ文学ヲ従トシ文武ノ両道ヲ以テ人材ヲ養成可致事

一　従来諸藩ニ於テ門閥ヲ以テ人材ヲ登用シ来リ候ニ付而者其門閥ヲ廃シ才能ヲ以テ人材ヲ登用シ候様可致事

一　従来諸藩ニ於テ文学ヲ以テ教導ノ基本ト致シ来リ候ニ付而者其文学ヲ廃シ候ニハ無之候得共其流弊ニ陥リ候者モ不尠ニ付而者其文学ノ用ヲ主トシ武芸ヲ従トシ文武ノ両道ヲ以テ人材ヲ養成可致事

一　従来諸藩ニ於テ武芸ヲ以テ教導ノ基本ト致シ来リ候ニ付而者其武芸ヲ廃シ候ニハ無之候得共其流弊ニ陥リ候者モ不尠ニ付而者其武芸ノ用ヲ主トシ文学ヲ従トシ文武ノ両道ヲ以テ人材ヲ養成可致事

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

規則

一 禄制二十一等ニ分チ士族ハ十八等ニ止候事
但士族ノ元高十三石ニ満タス卒ノ元高八石ニ満サル者ハ是迄之通
一 元禄ハ現今被定行候高ヲ以テ定候事
一 仰来同心之輩ハ、卒ト可称事
一 禄制ハ、給ヲ現石高ヲ可称事
一 禄制ハ当年ハ是迄之通来春ヨリ可減事
一 禄ハ都テ摩ヲ来ミヲ賜候間其觸頭ニテ取扱大蔵省ヘ引申出事

禄制

一 元禄万石未満九千石迄　現米 二百五十石　一同九千石未満八千石迄　二百二十五石
一 同　八千石未満七千石迄　二百石　一同七千石未満六千石迄　百七十五石
一同　六千石未満五千石迄　百五十石　一同五千石未満四千石迄　百三十五石
一同　四千石未満三千石迄　百二十石　一同三千石未満二千石迄　百石
一同　二千石未満千五百石迄　九十石　一同千五百石未満千石迄　七十五石
一同　千石未満八百石迄　六十五石　一同八百石未満六百石迄　五十五石
一同　六百石未満四百石迄　**四十石**　**一同四百石未満三百石迄　三十五石**
一同　三百石未満二百石迄　二十八石　一同二百石未満百五十石迄　二十二石
一同　百五十石未満百石迄　十六石　一同百石未満八十石迄　十三石
一同　八十石未満六十石迄　十一石　一同六十石未満四十石迄　九石
一同　四十石未満三十石迄　八石　一同三十石以下是迄之通
但免二ツ五分四拾五人之法ヲ以テ汁ニ切上ケ可申事
以上

右新令原書無顧歸印本也何日発行スル所ナルヲ不知竊按中田四物成ハ天
下普通ノ例也今三半均二五分成トスルハ何ノ據アル乎人ノ至寶ヲ取リ先ツ之ヲ賤
視シ不値ノ低價ヲ定メ再ヒ數分ノ減價ヲ與ヘテ大每ニアラスト云ロトモ人之耻セシヤ
時勢ヲ以テ斷然割討減俵スルハ尚可也堂々タル朝政日ニ新ノ朝三暮四ノ詐術ヲ以スルヤ
又按本藩割三ツ半減ヲ以テ二ツ半成ニ校スル寸ハ左ノ如シ

三ツ半 千四百石　現米九十石　同七十五石
二ツ半 千九百六十石　二斗八升氣メ 三百九十表三斗余　二百五十俵二斗四升下
三ツ半 八十石　〃 六十五石　同 二十三石
二ツ半 千四百石　〃 二百三十俵四ツ　〃 七十俵一斗六升
三ツ半 西石　〃 十五石　〃 十三石
二ツ半 西四百石　〃 五十表余也　〃 四十五俵二斗下

右ノ如ク本藩ノ減俸益苛薄也

○五 在若松縣論詔逕年十二月十三日至同十六日晩達第四
上畧 其度矢嶋三八ヲ遠ク戌下其上ニ至リ尚又當所ヲ戌下矢嶋家ヲ親類等ヘ大悦
私近處社中迄モ其上若狭等ノ所ヘ浪人銭多分出兼候ニ付大層ニ至ル手深ク之ヲ致
議事所ニ於テ何ト云ヘキ様ニ是ヲ極メテ候ト
若松町中ノ者モ誠ニ難儀致シ候ニ付下上町ハ行人町石津屋太吉下町ハ七
日町笠原屋南町杵屋ナト毎日立下リ役向ハ相談ニ及ヒ小監察ニ及ヒ先ヅ之ラ
下リ大名事ニ心ヲちひさいニナリテ半分三十斯メ九百人程ヲ極一日ニ試度
ひとつ定メニ及ヒ私義之合究メシモ多ク不申毎日多人数参リ役向誠ニ之ニ付
吾日ニ極メ置候大名事ニ相性ニちひさいニハ十二等ナト等持越シモ島度私
モ度々冥銭ニ至リ押合ニ罷長クハ勤兼申ス恩モ吾ニ向ヒ極メ近ク補佐ナト
仰付ト○塔寺屋伝平モ二大才松ニ知申中村ニ及ヒ申ス口ヘ合ク留守ニ罷居候ト

捌物ニ候ハヽ早ニ帰住ノ何日ニ家業仕
為取ノ故ニ候ヽ宇吉ハ先達中国ニ赴ク
候ヨリ是モ不好ニ候ヽ追返ノ事ニ
大事ニ候ヽ病難ニ付ヽ
四條敷出勝ニ一六休日ニ
仰ニ一切ノ天川ハ私ノ仰ニ
辺ノ敬意ニ不止ノ事ニ
○私預物ハ年中ニ
ニ候ヽ若様ニ
屋ヨリ銭ヲ
私行ニ

○此二十日迄ニ宇屋ニ持出ス事ヲ誡ニ
十ヲ十三日

右宿字有吉次郎持帰ル此ノ四字落原田對馬ニ
并ニ八毋氏ノ事ニ
十一月ニ七ノ村代参ノ日ニ
記ス書ヲ次ハ俄ニ一円ノ
一ノ学舎ヨリ新潟ヲ
ハ本山ニ一泊ヨリ
所ヲ八毋氏ニ
しハ云ノ宿ニ不ニ
材ヲ是ニ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

河卯三番藩士ヲ
以テ案使附属舎
計方ニテ若松ヘ来
リ県ノ舎計方ヘ
ナリ不諾不堪仕
筋名結方ヘ転ル
人ナリトカ

六 在若松海沼淫平十二月九日発午元旦達書 陣吉深雪但シ越後中
里者下拙俊去月六八日二等権大属ニ被成下下給ニ而拾五両位ニハ被成下候様ニ
君様ニ而ハ格別ニ御奉公ニ相勤候ニ付御心得ニ而被成下候様ニ
被仰渡ニ付城内ニ罷成十二月六日入越ニ罷成候間御下ニ而ハ
ソノ一ノ河代ニ人ヲ立テ来ルヤウニ同役抔ヨリ議論イタシ
呉ヌ迚ハ申ケレ共ニ而ハ参ラヌ河野卯吉ト申ス者ハ
ニテ下拙ヲ動向真直ニ動カヌヤウニト調役ヲ仰付ラレ居候間
河口ニ未ダ居ルヤウナレ共ヨリ外ニ人ノ
七 在若松河口ノ寄馬場長谷川両友書 十二月十三日
是ニ味アリ
畧上 矢三飯国ノ地事態ヲ私ニ承得ノ所ニ而ハ
ヲ以テ漸合併追々盛ニ相成候ヨウ而已ヲ主ニ而
官員ヲ数十藩ヨリ出仕ニ相成候ニ付テハ何国ヨリモ激烈ニ
彼実ニ風ヲ聴候ニ而ハ会津山ニ可相成唯席上ニ而軽談ニ
亭主ノ或ハ油屋ニテ内々ニ而相談ヲ以テ実ニ勤労ヲ
経ル筈ニ付テハ情ヲ以テ当県ヨリ当城内ヘ転移ニ相成ル
ヲ以テ当地ニ厳寒ニ付困難出頭候
従氷甚実ニ吾等ニ不量迎暖国ヲ念一日千秋ニ至ニ不堪ノ洞察ノ
当地情態ヲ先般著加ノ如ク形勢ニ
見込ヲ以テ屋建言仕ノ通使律ニテ諸関門ヲモ相ヲ当時ハ
静穏ニ相運ヒ久保村祝父殺害ノ人別五十嵐義十人ヲ子勝テ助外三人ヲ名捕
ニ相成候ニ付義十通ヲ以テ其外雇員ヲ札ヲ悪言ヲ三
而人余ヲ名捕ニ相成ニケ所ニ字充満最早指所ヲ衆人驚耳目ヲ一日

澤山召捕候節ハ二十七人ニ而ハ捕亡見廻ル八十人余ニ而ハ得共ニ日夜ニ休ミ
勉励罷在候ゆえ更ニ而ハ不合点ニ而ハ後ニハ名前ハ菊代ニ字ニ書ニ而ハ先般
大評論ニ相成ニ而ハ逆ニ捕亡ニ而ハ創建右ニ長二本松藩ニ而新ニ償両人ニ
先津川田嶌野澤坂下西附猶苗代ニ取締所ニ而捕亡ニ伍ニ組立伍長ニ
其上取締ニ置右取締ニ伍長相添ニ伍ニ出張巡邏ニ立ニ而ハ
ハ備前国山敷屋長岡ニ澤村松新在ニ本松ニ春相馬ニ熟ニ士分徒士格ニ兵
隊ニ実ニ大ニ警ニ人物ニ改議備後ニ討
之ニ敬伏ニ候ニ言如ニ使ニ指ニ運ニ愉快ニ
ニ行ニ候ニ紙ニ而ニ遠ニ候ニ委ニ細ニ
ニ候ニ

宍戸家兄君

十一月十六日ニ出ニ候ニ輪読ニ拝読ニ候ニ
大略承知ニ候ニ訂ニ候ニ
地ニ字ニ候ニ始ニ候ニ
水ニ流ニ候ニ実ニ
便ニ通ニ報ニ
人ニ償ニ札ニ
迚ニ流行ニ天ニ
村ニ強盗ニ
柿ニ夜ニ
ほとん先一寸ニ

四會藩老臣原田對馬儀事

十二月十三日

雲梁伏讀如命時下寒威嚴冽之候弥以
申公尊母君御安康奉賀候扨又過日
御仁恤家名之儀下々迄難有仕合奉
存候就ては御家中之者共一統之
為め乍故御家老成法之通り御
取計被下度此段奉願候以上

十二月

四會藩銃隊長楠口中之助儀

如件

今寒冷弘堺之御警衛被得候儀
次第ニ候ニ付而ハ銃隊之儀ニ候ヘハ
話ニ罷有中ニハ母君ニ而ハ
情之候不残之者迄細ニ對馬ニ申聞
むね人々申上候ニ付而ハ
ほ在国中ニ不一通ニ候ニ付

西之ハ飛中御無之誠ニ通難有之ニハ御座候得共何とも致方無之次第ニ御
座候異船来とも此節周旋備ニ不仰ニ御座候故又此節国後ハ御奉行御出
張ニ相成実ニ一天之下此度相成候得共兼而諸備ニ而此節 御付出候
義諸藩ニ至迄御手当ニ而御座候得共此節国ニ而者至ル下人ニ而も和ニ而沢山ニ
東ニ殺害候此度之義何れ一ノ申上候ニ丸之国之下ニ北ニ行故沢山之御座候
而不悪候召候様仰候故何れ中上候也山海御座候得共者又何之候御沙汰毎ニ
可申上候 以上

十二月十三日　　　　樋口中之丞

十一 御会藩 赤羽治平様 御書状

叢元之節ニ御座候哉余程此御基ニ成御座候由甚ニ御座候古例ハ道中も
途ニ候ニ御座候哉御別条無御座候御安心被成下候其外ハ兵乱後之御様

極方不容易御役儀ニ御座候哉御成功ニ上御沙汰ニ成目出度御儀存候御在
留中ハ別而御尽力とも心配成種々御厚礼難申上候存候
此度段ニ成下候此度家老御免ニ成下実ニ難有一統安堵仕候ニ
御座候兼ハ渾ニ御念も成下尚又難有謝ニ御座候後大勢ニ成候
御国表ニ而も下候御座候将又矢張之ハ候御安堵被成下御案内ニ候
連々御下向之御世話ニ罷成候段毎々難有申上候式部ニ而無之送ニ下
候段御苦労之ニ罷在候士列ニ至迄下様周旋之御任ニ而御下知文
御尊慮ニ而御役村当人も難有存候京役人ニ而御尊慮ニ而中述下
候ニ御座候以来不相替御懇命ニ成下度候手紙ニ得是ハ庭箇條
御尊礼御容赦并何卒十月ニ下候近日発足ニ而帰国之節も又々御座候
右ハ御機嫌御礼旁之中上度過礼無下之拝面申上候誠ニ奉存候新下
御拝伴之丞

(三) 高野秩　　毎朝

[illegible]

(三) 今立矣吉　三八当東

[illegible]

(四) 水原縣職員録　　毎月四八休日之事

知事　三條西正四位　　權大屬　　[illegible]

大參事　長州　名和　緩　　[illegible]

十參事　大山　松田將造　　租稅弓ケ板　長岡寛二　　[illegible]

今　宮城　守永快之　　今計　手代　加勢　　[illegible]

大屬　　四幕　[illegible]

庶務　水原在　遠藤七郎　　刑法弓　[illegible]

今　米沢　[illegible]　　監獄　伊藤退藏　　[illegible]

今計弓　鈴塚貢　　今屬　　[illegible]

[illegible]　　租稅弓　大山　松山三二郎　　[illegible]

[illegible]　　今計弓　[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　刑法　系急り　銀林正藏　　[illegible]

[illegible]　　塩ノ町弓　今　入澤廣　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]　　[illegible]

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

北州
中条為法　表柳林之助
四郎兵
仝　永野小茂之
曽根為信　福井四郎
長岡
仝　神戸治兵衛
大泉
相良為　相良文字
火属心得
水原在
刑法局　清川二初
糸魚川
中条信　歌川徹太郎
曽根為信　加藤半平
史生
水原
　　笠原譲之
同
　　渡辺行蔵

権少属心得
居之　小池巌藻
社祠
四等
曽根為信　小林次郎
営繕　水原
大泉　北山芳馬
会計　氏家泉
史生心得
寺田
　　増山銀蔵
東京　水原
　　誠三
照寺
小松郡司
渋川條蔵
菅原梅之助

一等補亡　八人
二等補亡　九人
軍務局
兵器
大属事務　宮守
　　戸祭加直
茶
　　中村吉次郎
下調
同
　　吉田都之助
同二人
使丁七人　下使丁三人
以上
右之通…新潟
十九日
一ヶ三

一　十一月廿七日川田村弥兵衛並其妻ヲ殺シ…其死ノ状…或ハ者三人ヲ斬梟…夜…

十五

一　薩藩…

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3　　ガラス使用

一除日水原式兵発行三隊各小赤旗（徴号ノ如シ）ヲ連銃口ノ下ニ結付ケ一面ヲ紅ケ司令士官ノ指揮ヲ待テ兵衣一様ニ黒ノ厚毛布（ダレクット）ヲ着シ各巻ヲ同ジ様ニ負ヒ剣ヲ佩ビ行軍式ヲ行フヿ

一陸軍ノ法ハ右側ヲ行ク故ニ行軍式ヲ行フニハ今後ノ法ハ右側ヲ行クヿニ改メラルヽ筈ナリ

一兵衣摩毛布ハ一時借与ノ事ニシテ各隊ノ中隊位行軍式ヲ終ルヤ直ニ東署ノ兵ヲシテ収メシムルヿ

一兵二時年ヲ切リ条述ヲ陸ニ営ラシム上等兵ハ四ヶ年下等兵ハ二ヶ年ヲ以テ定年トス

一教育総監ハ元帥陸軍大将大山巌公ニ任ス

一我台湾無川迎船ヲ以テ兵糧（今ノ糧食ノ事）武器ヲ送ルヿ

一頃日伊藤侯ヨリ台湾ニ在ル某ニ宛テ書ヲ寄セラレシニ其中ニ曰ク台湾ノ人ハ塩ヲ喜ブヿ甚シキヿ故ニ塩ヲ利ニ着ケテ売ラバ大ニ利ヲ得ベシト云々ト実ニ台湾ニ於テハ塩ハ専売ニシテ其価甚タ貴シ故ニ某実ニ此ノ利ニ着ケ大ニ器械ヲ購ヒ来リ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

一賞典三百石内二百石永世被下一石ニ付金拾両宛
ヶ年ニ二百三十七両五十両
七月限り正米ニて被下候一ヶ年ニ一度ヶ年ニ一
一賞典等級ハ政賞官爵ニ計リ程中ニ於テ学業ニ長シ
見り言ヒメ候定又賞禄賜物ニ多ク等ハ復別ニ評候
候ニ者ハ等級ニ除キ有ニ不定ニ有リノ由ニ候ニ
須候ニ者ニ等ニ昇進ニ其ニ言ニ不得ニ
一二左ニ
一百石ニ
百石ニ
ニ百石ニ
一四十石ニ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　ガラス使用

り之を口多と雖ども仍ほ多吹の酒長山昭郎の之に功ありと雖ども旦つ田戦ごとに之れに同席りるるを以て罰せざるを以て

一 楯口旗鉾 後に十石を賜ふ此両士塚山の役芝に多村豊軍に従ひ楯口戦ひ鉾手は

楯は墳ともよむ

名を陣中に行ひたりと雖ども平の帖りなん同じくは同等の賞と楯氏名字ならんと云

一 金忠兵衛 上に四十石の賞と大砲の用ありなん人ありせば此の一人ありせば

一 除夜子元日の夜子近普定に押そりて不意を述んとするに当り二日山越銃頭共に同陣して相共に時を計り昼夜を分たず水田中を泥を泳ぎ近づきしかば敵方にては

同夜数発水田中を泥を泳ぎ近づきしかば敵方にては不意を打んと陣中

うろたへ騒ぐ体にて大砲を発ちかけ鉄砲を放ちかけ数百人の喊声を発して

攻懸りしかども敵方にては不意を打んと陣中

リありしを以て云ふ所なく小陣を張り行ふ所なりと云ふ

一 或人云山路長中を支牧大吉左楯表皆五十石之れ、偖牧野内匠頭

立此之ごとく牧野内匠頭多く牧野下田若狭守

あり田辺城り功ありと雖ども若狭守は慶長五年の役に会津攻に従ひ

背き松倉豊後守を受他の陣を屠らんと願ひしかば豊後守は

ノ名護屋守ける迄退き豊臣家の為に尽力せんと雖ども

陣ノ上、名を云ふ郎ち名誉ならん

一 或人云戦没者在命中ノ功に准ず褒賞の加賜ありと雖ども如此ごとくは次ぐ戦ひに

計り去年ノ軍より一隊死ぬ氣ノ者ばかり唯遠くに

芝居の役者ごとく必ず生死を争ふ者と覚ノ及ぶ故と

一 或用度云本田、牧ノ如ノ日録を為せ世営録ノ如く善悪ともに

石ノ領興ごとく朝旨に不一の叶人ノ不孝ごとく又或人云ふ本ノ世録多くは勇士にして十五二十石ノ

加禄ノ得んもノ百人ごとく二人ごとく過大ノ幸より得んとするに何ぞ不孝ごとく云ふ孝ごとく

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

一 飯山ヨリ荒井ニ到リ戦ル者ノ賞五石五ヶ年或三千疋ホ各有差或人云此賞其法ノ至之兵法ニ曰
初戦ノ勝敗ハ大ニ兵ノ氣力ニ関スル之夫レ一敗スレハ氣弛ミ一勝スレハ力益十ルモノ之云兵理ヲ
不知北征ノ勝負安田ノ一勝ニ関スル不[illegible]有賞償テ示ル欤
一 河口元 三十五石 馬場弘 十八石 戊辰春越奥潜伏ノ労共ニ同シ河ハ北征ノ總督ヲ十シ馬ハ江戸ヲ引キ
後ハ出張シテ戦地ニ赴ハ迄共ニ[illegible]之[illegible]蔵金賊[illegible]ノ時[illegible]本営新発田[illegible]ニ促シ
[illegible]シ不意[illegible]
[illegible]馬[illegible]テ走テ長岡ニ[illegible]一件[illegible]司令ハ[illegible]兵ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]故ニ[illegible]
[illegible]ノ人[illegible]一ノ[illegible]
遂ニ不選[illegible]河氏也ト云[illegible]失タリト評セリ
一 堀川[illegible]二十石之[illegible]
[illegible]

[illegible]
一 四禄減[illegible]上賞[illegible]高低[illegible]換ヒ河原氏第一 [illegible] 長沢氏第二 [illegible]
第三 [illegible] 今ハ牧大氏ハ不[illegible]
[illegible]十石ハ[illegible]一[illegible]減之[illegible]新恩十石ハ百石ニ[illegible]ト云
一 或人云同[illegible]近藤[illegible]竹[illegible] 三十石 前島[illegible]千[illegible] 十二石 [illegible]
[illegible]
一 [illegible]下等十[illegible]長谷川直 十八石 [illegible] 十五石之[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一牧大阪ヨリ毎銭屋ヘ今ヨリ各ヨリ当ノ功労ヲ言ヒメ裏後ヨリ由ヲ以テ記シ置ク故
傍聴ノ向後法ヲ設ケ其ヲ以テ記録ニ記載後ヨリ定ムル故ニ

大下等ノ書員典

石五十名　河原均
七十名　岡野敬一郎
六十名　近藤普

上等

矢野唯美　四名ヲ
渡邊中洲
西山良輔

石合義夫
中村順太郎
上原宗一郎
渡邊宗蔵

山越一　十九人
牧野功一郎

前島七郎
奎児友太郎　四十五名ヲ
吉村九織　上中等

小宮山三吉
牧野大右ヱ門　三十名ヲ
柘植協　五十名ヲ

清水一郎ヲ門
河口九文七
高野名合吉

藤井芳郎
橋本卯下　十九人
河原小聴
小松純三郎

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

小林勝之助
竹内新七

五人

三輪六十郎
三十五石

星野保衛
竹内新七
上ノ下等

祢津丈之助

二十五石ノ

海野寛男
宮下欽次郎

金児三郎
大島春水
櫻井佳人

野村信下ル
祢津常之助

中村九兵衛
金井好治郎

西村申太郎
水井浪馬
増田将曹

近藤友三郎
二十石ノ、

倉田多久
出浦浪人
木村山熊之助

松村作左エ門
菊池市五郎

松林九八吉
武十三石
ノ二十人

蜘川堅之助
山越新八郎
原三四郎

祢津子馬之助
小崎貞兵衛
金井弥惣兵衛
佐国弘人

枸沢龍之助
矢島喜助五衛
金井精蔵
関山藤三郎
岡嶋慶蔵
国本八百人
中村勝右エ門
竹内直太郎
塚野栄治
小出甚四郎
佐川彦之亟

白川覚蔵
藤田駒治
宮矢儀之進
望月興蔵
大日方孫三郎
関田十郎
成澤新弥
久保藤蔵
長谷川徳太郎
福口覚男
春日二次郎

宇敷敬之助
金井清八郎
徳田房人
堀内元司
月岡徳治
小泉市治
福口旗之助

イ三十二人
中ノ中等

小幡助市
徳田治郎左エ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

綿田貞藏
菊田角次郎
竹内友馬
岩下章五郎
玉川渡
馬場廣人

十八名ツヽ

池田平角
長谷川直大郎
久保五郎
西村健夫
岡口勇馬
久保雄之進
寺内又左ヱ門
青木直馬
鹿野淳二
南部鳴渡
湯本久次郎
緑川政馬
西村八十馬
仙道彦治郎
坂口又治
木村帯刀
島津左織
川崎源吾
高藤竜作
小山田甲子助
澤静人
野地勇太郎
高井栄司
林栄之丞
松田芳太郎
片岡多之丞
鹿野浪江

山本十昇
和田英助
菊島安之丞
友野鳴海
鹿野久人
高田惇郎
中澤房治
佐藤清蔵
川岡清吉
西村幸馬
伊木三亜

十五名ツヽ

海沼忠義
中條精一郎
菅原慎吾
中島直蔵
北澤一二馬
中村大助
中澤房治
大里忠助
九山竹院
桜井準吉
津田源五郎
菅 鉞太郎
久保三郎
原叢馬
宮沼馬輔
片岡五郎八
三村鍈太郎
小林多七
山本直次郎
栄名左右助
坂口右左助

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

小林藩士
淺野寅次郎
あき雄
依藤佐九四
山崎良作
高島鳥堂
矢野平
佐田民治
奥村峰次郎
白川諦之助
人吉毋鉄之丞

小野重男
八田高吉
小田礼助
中村学助
神谷伸助
田中大作
春日岩治
小山福三郎
小山新兵
志茂玄三
吉永一庵

中島静治
清水宇吉
竹内又吉
古川秀吉
小山大介
野田磯之助
佐藤重吉
竹花兵衛
事角富吉
吉澤慎之亟
梅本高吉

宮入半亟
堀井泰蔵
羽田三蔵
宮川国蔵
近藤稼堂
小林三蔵
清水吉右衛門
堀田逸見
篠崎源蔵
鈴木復亟
樋口弥助

長谷川大郎
十五十八人
下山宅

岩下修蔵
大里高吉
御田覚之進
竹内横平
清水新次郎
小林雲天
奥山八十治
佐藤誠之丞

秋里初平
小林猪亟
白川宣馬
長谷川勝次郎
宮澤小三郎
高田一二郎
小山友吉
佐藤誠之丞
松本修吉
佐藤儀之助
河口秀助

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

（元）我后八日町見付訴状箱ニ

知府事他ニ心有テ忌中士民ノ心ヲ汲我心ヲ汲故ニ士民ト好悪ニ化ヲ
共ニせん恵ふ可ノ所ノ事ノ六下情ノ壅塞ヨリ因テ一ツノ箱ヲ設ケ
小児ヨリ今ヨリノち哀訴セんと欲スルノ書ヲ投ノ申ニ投セよ我
親ラ之ヲ疾苦ノ處存ヲ視察せん

月　日

（三）中ノ条布令

兼テ布告有之通大札引換ニ付未タ十分ニ製造ニ不及下ニ付取敢
抔ニ有之ニ付先ニ而両通ヲ為用ノ為十五日ノ迄ニ引替ノ条満県ニ而ハ取得ノ
引替札ハ御布告ノ形ヲ以テ自在改ヲ受大蔵省可ニ而ハ出ノ事
但三府ニ於テ為替会社ノ札ヲ通用ニ付テハ右ノ通日ニ引替ニ及ハ不ノ事

会津藩　　宮田利右衛門
河口浅右　　伊東左太夫
沼谷玄化山　　立花清兵衛

ノ二千五人

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

右之通可布告有之候事
事用立之迄之ら歩事

十一月廿四日　中之条局

悪をこゑをもし而五分之利之子ある引換之
右之発　朝廷等ニ不仕為得止事件ハ　仰出之条心得違之候ハゝ厳重
下し難法ニ又不文之条或ハ難渋ニ付ハゝ速ニ取上ケ
朝廷於ニ可相達事　巳十一月　中之条局

其県管轄信州地所先頃ニ民蜂起其後及鎮静ニハ候ハゝ地券ハ従来渋滞
勝ニ悪風不廿新令下民疾苦之情実ニ貫徹不致候ニ付ハゝ先郷ニ候ニ付
うゑ免角ニ愚民ニ煽動ニ良民ニ矢害ニ引起ニ候ニ付ハゝ不容易事

民部省

ニ付此度巨魁ニ者厳重ニ可申付候事

十月

大政官

右之通ニ　仰出ニ付ハゝ万一ニ不法之儀ニ候ハゝ速ニ可申出候事

巳十一月　民部省

○菊桐ハ当分ニ付ハゝ龍剣ニ
十二年通用
○此一款ハ改革ニ付猫瞎ニ解ク

太政官ニ龍剣ニ付

(三)題難師別行

天師不相識金札悩窮民。漫莫為割下。國中恨一新。

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

新屋修又
石之来中

東に新有
大古写有
写山有

井部上有
松川村
平作
中部有

今般不慮之御事ニ付高社維持之為建相成高社維持之為建相成

右ニ付而ハ其筋ニ委細之儀ハ申出候事ニ付引続之御取扱

追々申談之儀ニ付而ハ其筋ニ委細之儀ハ申出候事ニ付引続之御取扱

已十二月中郵局

㊂ 御沙汰書写 己巳日誌第百十二号 十二月二十日條所載

其先贈従二位中納言光圀兵革始息文教未明之時ニ方リ首ニ尊 王之大義ヲ唱ヘ君臣之名分ヲ正シ殊ニ心ヲ修史ニ尽シニ於テ千古之褒典ヲ興シ其功績深リ 御追感被為遊候之贈従一位 宣下候事

徳川従四位昭武

徳川従四位昭武

祖父従二位大納言齊昭祖先光圀之遺旨ヲ継キ尊王之心ヲ

綱紀之衰頽ヲ憂ヒ外ハ邊備之台弛ヲ患ヒ自ラ奮テ国家ヲ維持セントス其忠志

深ク 御追感被為遊候之贈従一位 宣下候事

㊃

草莽一介之身ヲヲ綱紀之衰弛ヲ憤リ名分之紊壊ヲ憤リ然シ其時之不可ナルカシ著述

ニ事ヲニシテ 朝廷ヲ尊崇シ教ヲ神禅シ其風ヲ興シ 興起スル者不少其気節ヲ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

深ク御追賞被為在依之里門ニ旌表シ子孫ヘ三人扶持下賜候事

高山彦九郎

(三)

草莽一介之身ヲ以テ勤王之大義ヲ唱ヘ天下ヲ跋渉シ有志之徒ヲ鼓舞スル世之困極ニ遭ヒ終ニ自刃シテ死ス其風ヲ聞テ興起スル者不少其ニ氣節深シ 御追賞被為在依之里門ニ旌表シ子孫ヘ三人扶持下賜候事

宇都宮藩

山石 鼻縣

別紙之通故蒲生君平高山彦九郎ヘ 御追賞被 仰出候條於其縣旌表扶持等取計可申事

(三)十一月十七日追録

贈從一位太政大臣平信長ヘ建織田社之神號

宣下有之

(二)雜詠　蒲生秀實撰　下七

不希千歲壽不羨百城榮但願明王興經邦用典刑國遠冠帶國名正職貢包茅至咸朝玉帛盈巍々主天地先祀致孝誠俗美弘風教倫明尽厚生商人恥言利遊士欲躬耕家々蔬親膳時時敬無所營一妻一子の生安撫待其成講學傳儒業詩書頌太平

謁故會津(蒲生氏郷ノ)相公廟

廟古悲風對落暉白楊蕭索葉初飛山川顧望田封地淚下関東一布衣

無題

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3　ガラス使用

帝室衰微久吾憂不啻茲間鶺春已古望集夜方知大
患言益改幽楚忍入詩莫笑身先贅雄心在數奇
男兒抱肝膽窮路覓才疎未入楠枝憂空論北園書正
名唯危行憂國不安居罪我兼知我人間又至無
治極民多華悠々數百年感時人易老懷古夜難眠義
勇楠河内英雄紫筑前二公誰可學伏劍問蒼天
治亂盛衰自不窮所希千古在英雄驚宸迹樹南枝夢
呂得中興一建功

偶成

丈夫三十尚無名學劍中休夢半成器量總非萬人敵
不知終是一書生

北顧時患國西懷淚濡襟自非奇節士誰能盡此事

（此ハ古詩長篇の句ナリ覚ヤ久下見遺稿数首アリ此ニト有リ河ハ菅生先生一生ノ功業ヲ
先生悲壮激烈ノ詩数有ル假令失其稿本申ノ間偶人ノ録置ヲ
有ラバ幸ヒ写入垂覧俾他日求ルニ便ニシテ宜備青睞候）

升平二百有餘年日喜
事從今願誦免羨蕃
鏡中白髮滿頭垂報國丹心天地知何日
老閑鷗渚上日相隨

（水滿從古每元旦今學子士賦詩各言其志故云）

君恩許歸
来魯書年咨故實誰知遺訓在治民務歸太平何足貴
須教帝力四方宣

（丁酉元旦
戊申元旦）

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

海上獻酒胡羯腥春来飲酒願無醒蚤向城南何處去
默祈 日本武尊靈 丙戌之旦

右四首幽谷先生元旦之詩廿一枚之重陽晃侯宅李東湖先生有之候

大廈誰知一木支中興成否繫南枝勤 王義結金剛
盟逆賊膽寒菊水旗還 翻復當躬率徒為百世師
堂機空餘一片精忠氣凜烈長為天保七年五月於五日是為楠公五百年忌辰感懷之餘賦一律敬呈
寶鏡長懸乾海頭太陽相映赫如新 藤田彪
恩輝照徹中原外 藤田彪
延作夷蠻戎狄春

時命奉君命考究神祇之事故詩意及此蓋亦藉祝斯道興隆云

常陸水戸小臣藤田彪

窮通無喜愠用捨有行藏月前一壺酒興味為誰長

東湖

九重深遠萬機之政委諸攝關以御恬憊兵馬之權遂
墮於鎌倉幷平四久矣来必莫陪臣執國命者變之
又變不知至何極而後止志士仁人所以嘆息痛恨於
此者豈有他哉尊 天朝也敬覇存也而鄙薄之夫
動視以為狂癡又從而誚作之抑亦惑矣

右一篇出於大和某寺中蓋元弘尚忠臣之所書云 昌天保酉戌
臣ノ凝作ヤ

国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

上加新田郡細谷村九郎幼而孤頼於祖母鞠育不幸而亡情所不忍忘再期大祥既過餘哀未盡猶至此耳先祖母平生酷嗜洒以故日供之墓前啐行人欲之今日見上人之過願奉一杯某無洒性使従者盡之愛士又云先祖母已以天年終郷園之事無以為念者従今以後将跋渉天下以償平生之志也天若假良縁或得再會因援筆書郷貫及名字某愛藏以至今也時余有所寫瑞岳周旋瑞岳深徳之遂以之為贈是余所以獲此蹟也嗚呼愛士廿負奇氣有忠孝大節東西跋渉常欲為天下有所報也落々寡合齎志以没固仁人志士之所悲也今此書雖出倉卒而端重剛勁類其為人其人既亡心畫猶

高山書丸郎幸正之字仲縄

書高山處士真蹟後

右高山處士真蹟桃蹊石川翁所藏也一日翁示予曰是高山處士居喪中所書也處士以孝行聞子盍為余記其概略昔寛政中余與下總結城寺僧瑞岳者邂逅語及處士之事瑞岳為余言某昔年到上野過新田郡細谷村適見廬於墓側者其人形容枯槁蓬髪坐地以纔架棚置書數十巻吟余而入曰言某高山氏称亮

日字ノ大サ大概如此

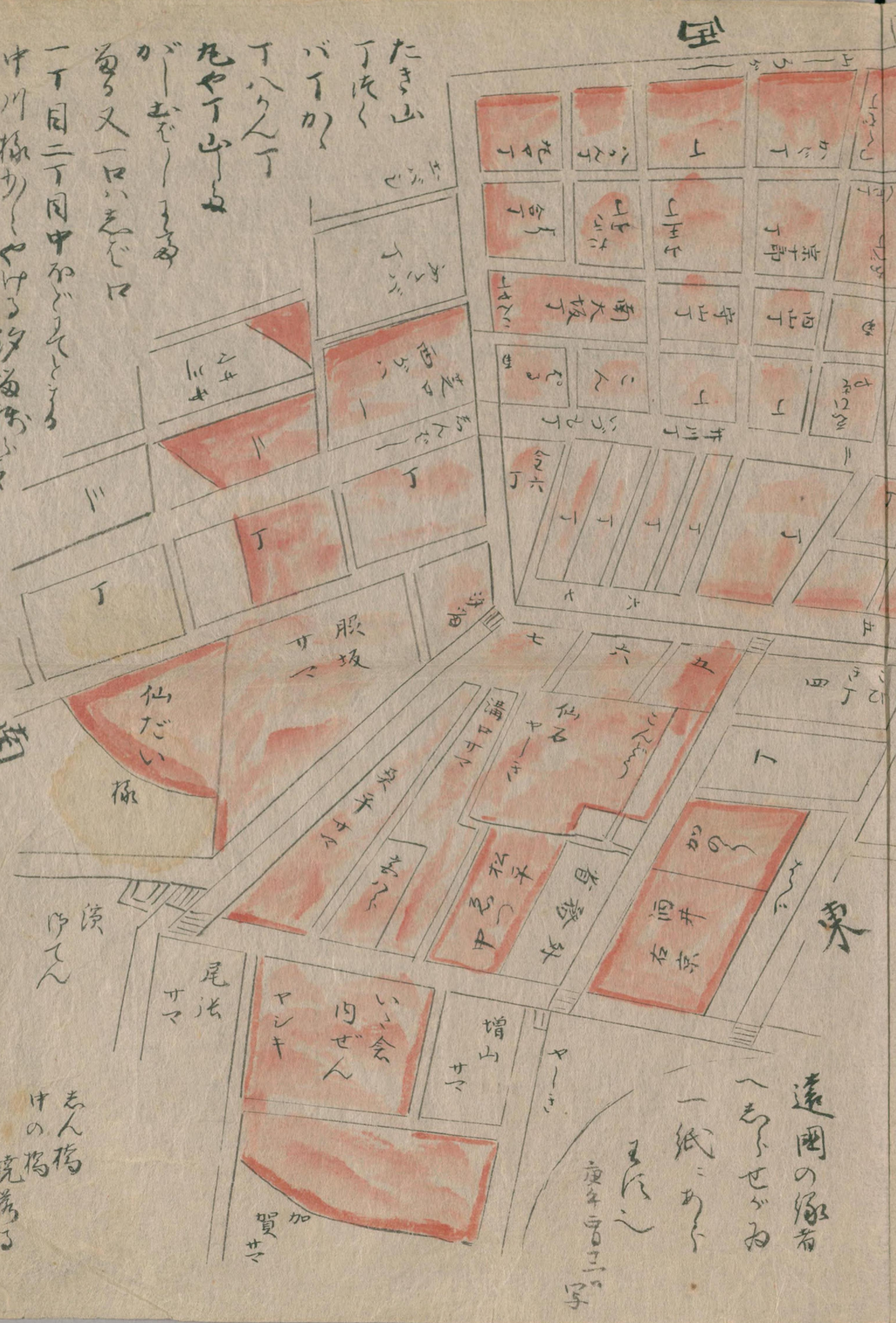
国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

存宜字箭之寶愛焉也北条伯基欲模刻以傳同好遂
為書之
天保甲午初冬　常陸　杉山亮識

水戸ニ士人往ニ来ノ節高山公ノ述ル事ヲ教ヲ乞ヒ
ノ旨ニ付会ニ義ヲ以テ来ル候ハヽ
日記ヲ以テ陸続ト一時ニ出ス
下ル事ヲ日一日ノ待ル事ヲ崔躍仕候
存候ニ付中山脩夫ヲ宅ニ
ヲ以テ
村先生事下

頃は明治二年
十二月廿七日夜
四つ半時を過ぎ
へ丁辺より出火て
折しも西北風を
けく焼ゝ丁一
二丁目名びすや
なていやきふく店
焼る市川丁出
雲丁舎てるや
き南大坂丁山下
丁南さ木丁家
十帥丁七丁目
内山丁山
王丁

△昨さ稼せんだ横かゝ
孫さ高丁やう石丁
中ゑゝそゝ焼る山ゝん
三丁目中ほどゟ四丁
又一口ゝこひき丁五丁目
のさゝ又五丁目橋を
か警箭のゝる山辺
溝口稼要
かゝのゝる老そ翌廿八日夕
時やう〳〵火もづゝ消人めんどの
思をゐ〳〵



国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用　挟み込み物

836
209
3

国立国会図書館　　タイトル『不懲迷語並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『不懲迷語並外録』請求記号 836-3